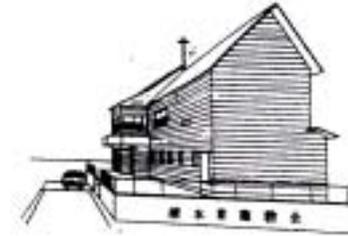


《今朝の聖書から》

今朝は“また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善悪を知る木とをはえさせられた（創世記2：9）”と語っています。最初のころから、“命の木”と“善悪を知る木”があったことが判ります。人々が持って生まれた性質の一つに“悪い行いを知っている”ということが有ります。聖書を読み進めて行きますと、地のすべてのものを治める責任を人に求められた神様は、だんだんに、人に多くのなすべきことを与えられたといえます。この頃、人は不安を感じながら生きることもありませんでしたし、他の動物を食料にするということもありませんでした（肉食が始まったのは、ノアの洪水の後ということになります）。自分の土地に小麦を植えるということが始まったのは、出エジプトを成し遂げ、カナンに入ってからということになります。はじめは神様の恵みの園の中で生きていたということになります。しかしこの時から、人々は罪を知ることになります。今に及んでいるのです。反対の言い方をしますと、そそのかしたのは、蛇でしたが、そのおかげで、善も知ったという事になります。“今の私たちには神様の善も、主の贖いの業の絶大であること”も分かるのです。原罪と呼ばれているこの罪が、必ず、まるで遺伝するかのようになり、生まれつきの人間に備わっているのと同じように、善、あるいは知恵も、それを求めるか求めないか、与えるか与えないかという、判断を神様の前にしなければならぬ、ということになったわけです。“主を恐れることは知識のはじめである、愚かな者は知恵と教訓を軽んじる。（箴言1：7）”とあります。神様以外の何を恐れて、豊かな人生を送ることが出来るのでしょうか、ということですが、これも善と悪とを知っている人の言葉です。アダムとイヴにもたらされた、善悪を私たちも知っています。今日私達がここに集まり神様の前に礼拝式を守り、聖餐の恵みに与ることを願っているのも、善を知っているからです。創世記3：8では“彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した。”と続きます。神様の前に、身を隠していることはいくつかあるのでしょうか。身を隠すところを、他に頼るものを探してさまよう毎日が直面しているのが、みんなが知っている罪なのです。罪でいっぱいの世界で、神に願って、恵みに至る力を与えられましょう。

週報

2007年 11月 4日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸